



福祉劇



開会式



清和文楽



基調講演



分科会1

「集落」から「集楽」へ ～みんなでかたろい、支え合いの地域づくり～

「第6回 町内・集落福祉全国サミットin熊本・山都町」 開催報告書

全国的に中山間地域の過疎化、少子・高齢化が進み、集落の維持存続さえ懸念される状況になっています。山都町は総面積の約7割を山林が占め、中山間地域に多くの集落が点在しています。

それぞれの集落は、長い歴史のなかで受け継いできた多様な伝統と文化を持っています。これを生かして「持続可能な集落」を目指す、創意工夫にあふれた実践があります。

その実践をととして集落の将来像を考え、住民の「やる気」と「元気」を広く全国に発信するとともに、熊本地震からの復興と復興以降の道筋を描き、さらには地域の支え合いから地域づくりへとつなげて行くことを目的に、「第6回町内・集落福祉全国サミットin熊本・山都町」を2018年10月27日～28日、山都町役場蘇陽支所で開催いたしました。

ご登壇いただいた皆様や参加された皆様の声をまとめ、サミットの意義と成果を振り返ります。



交流会



分科会2



分科会3



パネルディスカッション



山都フットパス



閉会式

START!

GOAL!

サミットを開催して

第6回町内・集落福祉全国サミットin熊本・山都町実行委員会
 実行委員長 梅田 穰 (山都町社会福祉協議会会長)

2018年10月27日から28日に開催しました「第6回町内・集落福祉全国サミットin熊本・山都町」に、熊本県内はもとより全国から2日間で延べ800名以上が参加し、盛会のうちに終わることができましたことに感謝を申し上げます。

全国の地域福祉に携わる方々が一堂に会し、基調講演、優良事例の発表、分科会、清和文楽鑑賞、交流会等多彩な催しの中で、福祉の担い手が国から県へ、県から町へ、町から地域へとシフトしていく中、参加された多くの方々にとって、地域福祉の重要性、進むべき方向性の議論が深まった有意義なサミットだったと思います。

山都町30地区福祉会をはじめ、町内の地域福祉に携わる多くの方々のご協力のもと大会は無事終了しました。今後、本大会に参加された方々の想いが、山都町の地域福祉そして全国各地の地域福祉の輪を広げる原動力になることを期待しています。



サミットを開催して

第6回町内・集落福祉全国サミットin熊本・山都町実行委員会
 実行委員 池田 昌弘 (全国コミュニティライフサポートセンター理事長)

この2日間は、山都町をはじめとする皆さんの熱意や日ごろの取り組みが凝縮され、活力のある地域づくりを体感する場となりました。

町内・集落福祉全国サミットは、急速な人口減少・少子高齢化に直面しているにもかかわらず活気のある中山間地域等の実践に着目し、これからの地方の、そして高齢化がすすむ都市のあり方を考えるヒントを学ぼうと、2012年9月より各地を巡回しながら開催してまいりました。第6回目となる今回は、山都町を舞台に、祭りや伝統芸能による地域のつながりや震災復興の地域づくりなど、狭義の福祉に収まらない幅広い実践を、県や国を交えて地域の皆さんと共有することができました。地域の伝統や文化を大切に、一人ひとりが地域の中で役割と生きがいをもつことが、介護予防だけでなく地域をも活性化させ、住みやすい地域になることを、山都町から実践をもって発信し続けてほしいと思います。



「第6回町内・集落福祉全国サミットin熊本・山都町」プログラム

1日目 2018年10月27日(土)

オープニング	山都町30地区福祉会「福祉劇」…………… 3頁
開会式	主催者挨拶 実行委員長 梅田 穰(山都町社会福祉協議会会長)
基調講演	「やる気」と「元気」を育む地域づくり(講師)大阪府立大学 教育福祉学類教授 小野達也 …… 3頁
清和文楽披露	「雪おんな 船頭小屋の段」 出演 清和文楽の里協会
分科会	分科会1「地域の伝統をつなぐ」 竹本友清(佐藤義和)/片山勇次/上村隆一/緒方利一/博多和宏 …… 4頁 中野孝治/池田昌弘/今吉光弘
	分科会2「災害からの復興、支え合いを通じた地域づくり」 渡邊忠幸/上村加代子/風保憲 …… 5頁 玉置隼人/佐藤寿一
	分科会3「みんなが主役になる地域づくり」 栗屋克範/坂本美喜雄/井澤るり子/山口靖/佐伯謙介 …… 6頁
交流会	

2日目 2018年10月28日(日)

パネルディスカッション	「住民主体による地域の支え合い」 坂本憲義/梶原豊美/中野孝治/玉置隼人 …… 7頁 山口靖/沼川敦彦/吉本祐二/小野達也
特別プログラム	山都フットパス「馬見原歴史散策コース」
閉会式	

第6回 町内・集落福祉全国サミットin熊本・山都町を振り返って 登壇された皆様からの声



山都町30地区福祉会「福祉劇」

「地域のお宝さがし」をテーマに、地区の福祉会長にさまざまな役を演じていただきました。現在の山都町の暮らしを再現すると共に、山都町のお宝や良さを発掘し、サミットの本題へとつなぐ劇となりました。福祉劇をとおして、参加者に山都町の良さを知ってもらうことはもちろん、福祉会長同士の交流の機会、また、福祉会長としての悩みや課題の共有にもつながりました。

山都町30地区福祉会 代表 春高 徳子さん

今回、サミットに福祉劇で出演させて頂くにあたり、社協事務局職員の大きな協力と的確なアドバイスがあつて出来たものだと感謝します。また、CLCの担当者に指導していただいたお宝さがし講座で、あらためて山都町の素晴らしさを発見でき、宝物がたくさんあることを知ることができました。ありがとうございました。

30地区福祉会の代表者が協力し、話し合い、自分たちのアイデアを出し合いながら作り上げた福祉劇です。1か月間、皆で一生懸命練習に取り組んで、仲間意識ができたように思います。練習を通じてみんなが仲良くなれました。会場の皆さんに伝えたいことや、笑って楽しんでいただきたい思いは、伝わったと思います。これこそが、30地区福祉会の宝物だと思います。仲間皆が私の宝物です。このような大舞台に快く参加させていただいたことすべてに感謝します。



「やる気」と「元気」を育む地域づくり

小野さんからは地域福祉の考え方について、これまでの原因を明らかにして問題を解決する問題解決型から、理想を描いてその実現を目指す目的実現型への考え方の転換の必要性についてお話がありました。また、目的実現型の福祉のために、地域住民がひとつの実践に関わることから、実践自体が福祉の場・活動であり、「やる気」と「元気」を育むことにもつながり、結果だけでなく過程も重要であることをあらためて学ぶことができました。

大阪府立大学 教育福祉学類 教授 小野 達也さん

実に芳醇な時間を過ごすことができました。

講演した「増進型地域福祉」の原点は山都町(旧蘇陽町)です。今回は、私にとって原点に戻ったようなものです。いや原点どころか、改めてこの地域の豊かさを発見する機会となりました。「マイナスからゼロで終わらずに理想を求めろ」、「幸せを生み出していく福祉を作る」ことの意味を深めることができました。このサミットのおかげで一人ひとりに出会えた喜びを感じます。永続する幸福を求めて。





地域の伝統をつなぐ

地域の伝統文化を守り続けることは、子どもから高齢者まで全世代が関わりを持ち、地域が『元気』になること、支え合いの原点がそこにはあることについて共有しました。会場からは「今まで受け継いできたことを次の世代に伝えていきたい」と熱い感想を頂きました。

●パネラー

清和文楽人形芝居保存会

会長 片山 勇次さん

今年も、文楽公演を160回ほどこなしてきました。その中でも、横浜・日田の公演は心の中に残っています。また、サミットでのパネラーとしての出席は、一生の思い出となることでしょう。小野達也先生の貴重な講演での『やる気』と『元気』は私たち、文楽をする者にとって勇気づけられました。これからも、文楽の技芸向上に努めて、地域の方々に喜んでもらえればと思っております。



清和文楽の里協会

太夫 竹本 友清(佐藤義和)さん

この度、サミットを通じて、さまざまな方々と各地域が抱える問題について、貴重な意見交換をさせていただきありがとうございました。清和文楽では「雪おんな」を上演させていただき、大変感謝しております。この度の交流を通じまして、今回サミットに参加していただいた方々だけでなく、他の地域も、もっともっと元気良くなってほしいと思っております(熱い情熱を持って!)



馬場楠区

区長 上村 隆一さん

山都町への道すがら、車窓から見る風景に癒されるも人影は見えない。車中「なかなか人に会わないね」の会話の中、広い畑に立つ人が目に入りました。その存在感は都会の横断歩道で見る群衆の一人とははるかに違います。農村集落は一人ひとりの顔がよく見える集団です。それは当日のオープニング「福祉劇」に象徴されます。一方で「清和文楽」という古来からの芸能の継承、実演を見ることができて感動の至りです。山都町そして関係者の皆様、本当にお疲れさまでした。



白馬会

会長 緒方 利一さん

高森町を過ぎ、蘇陽にさしかかると紅葉が始まり、のどかな風景が目にとびこんできました。サミット会場に到着すると、スタッフの方に迎えられ、温かいおもてなしに大変嬉しく思いました。係の方より1日目の説明を聞き、緊張が高まり、分科会では自分の時間の都合上、十分な話もできず残念な思いもしましたが、私にとって人生最大の経験をさせて頂いたことに変感謝申し上げます。ここで学んだことを、私たちの集落において、微力ながらもお手伝いをしていくつもりです。ありがとうございました。山都町のますますのご発展をお祈り申し上げます。



情熱家 吹上ワンダーマップ

実行委員長 博多 和宏さん

一番印象に残っているのは清和文楽の人形浄瑠璃です。興行に訪れた人形芝居の一座から人形を買い求め、技術を習った始まりや、世代が変わり興味を失った住人が貴重な人形をかかしに使っていたエピソード、そして復活した現在の状況



もとても興味深かったです。地域の新しい魅力を伝統として残すためには「楽しむ」ことが重要だと、あらためて感じることができました。お土産に頂いたブルーベリージャムがとても美味しかったです。



参加者とともに「情熱のポーズ」!



清和文楽を鑑賞

●コーディネーター

熊本学園大学 社会福祉学部

准教授 今吉 光弘さん

地域の皆様から元気とパワーをいただいた2日間でした。

地域に根付いている伝統的な行事の継承、地域が元気であるとその地域は活性する。地域を大切にしている価値観が多くの人々に広がってほしいと願っています。





災害からの復興、支え合いを通じた地域づくり

熊本地震におけるさまざまなボランティアの形、またそこから地域づくりへとつながる実践を3名のパネラーに報告いただきました。サポーターである厚労省の玉置さんからは、「今ある地域の資源が活かされ、私たちが生き生きと暮らせる地域ができるには、住民も専門職も、前向きに取り組んでいくことが大事であることをあらためて感じた。良い刺激を受けた」との感想をいただきました。

●パネラー

中島西部地区社会福祉協議会

会長 渡邊 忠幸さん

サミットにパネラーとして参加させていただき、貴重な経験をすることができました。



地元は高齢化率が約50%という地域です。2016年4月には熊本地震が発生し、山都町を含む近隣地域では、大きな被害がありました。たまたま地域の公民館がボランティアの宿泊施設として利用されることになりましたが、当時は仕事の関係で何一つ支援することができませんでした。2018年4月、母の介護のこともあり39年間のサラリーマン生活にピリオドを打ち、地域のために何か役に立ちたいと思って地元の社協会長を引き受けたところ、最初の大きな仕事が今回のパネラーでした。まだまだ知らないことばかりですので、知識を広げて今後の社会福祉活動に努めたいと、思いを新たにしています。

NPO法人 にしはらたんぼぼハウス

施設長 上村 加代子さん

サミットに登壇して感じたことは、住民意識が高いこと。「自分たちの地域は自分たちで守る」福祉劇においては、「やる気と元気を育む地域づくり」ができて



いるのではないかと感じました。サミットを山都町で行なったことは、住民の方の意識向上において自信につながったのではないかと思います。災害からの復興、支え合いを通じた地域づくりの分科会は、ボランティア団体との支え合いの取り組みでしたが、いろいろな方たちとの共生を含め、良いサミットになったのではないかと思います。



熊本地震・共同支援ネットワーク 幹事 凧 保憲さん

サミットのご盛会をお慶び申し上げます。開催決定からの約1年間いろいろなご苦労があったことお察しします。

過疎化や高齢化の深刻な地域で開催されたサミットですが、参加された山都町の住民の皆さんの生き生きとした表情を拝見し、同じような地域で地域福祉に関わる者として、大変勇気づけられる思いでした。今回の取り組みを糧に、さらなる集落福祉実践の充実をお祈りしています。



●コーディネーター

宝塚市社会福祉協議会 常務理事 佐藤 寿一さん

町内30地区の地区福祉会長の皆さんによる福祉劇に始まり、さまざまな発表や交流会、おもてなしと、山都町の皆さんの溢れるようなパワーをあらためて感じた2日間でした。震災復興の活動では、感謝しきれないほどお世話になりましたが、その経験が大きく花開いたと感じました。このような会が全国に広がり、地域福祉が市民によって語られるようになることが、住民主体の地域づくりを広げていく原動力になるのではないかと思います。



会場のひとこま



物販コーナーは大にぎわい



町内の子育て支援センターのパネル展も好評



飲食スペースも



みんなが主役になる地域づくり

集落の資源を活用した実践を紹介し、子どもからお年寄りまで巻き込んだ元気ある地域づくりについて考えました。3名のパネラーからは、地域づくりを行うなかで「自分たちが楽しむ」「無理をしない」「できる人ができるしこ」の共通意識のもと、取り組みの効果や課題について発表がありました。地域づくりの根底には、地域の福祉力が必要不可欠であることを共有しました。

●パネラー

東竹原自治振興区

元会長 栗屋 克範さん

このたび、発表の機会を与えていただき感謝しております。

奥阿蘇東竹原の地域資源「みさを大豆」の復活と継続栽培、それを利活用した地域イベントについて、全国からお集まりの方々に知っていただけたことを喜んでおります。また、地域商品(水煮と豆腐)の販売にご協力いただき、ありがとうございました。発表にあたり、皆健康第一に楽しんで、ひと年輪ひと年輪、継続の和が地域内外に広がり、山里の交流が盛んになることを願ったサミットでした。



大野自治振興区

会長 坂本 美喜雄さん

サミットで発表の機会をいただき、多くの皆さんと身近な地域づくりの交流ができたことに感謝しています。

今回の発表で、これまで取り組んできたことを振り返りながら、あらためて地域を見つめ直すことができました。皆さんからいただいたご意見などを踏まえ、これからも地域のつながりを大事にして、大野ならではの地域づくりを進めてまいりたいと思います。



合同会社フットパス研究所

代表 井澤 るり子さん

身近な地域の活動事例を参加者が聞くことができ、ただ参加するだけでなく「共感・賛同」することができたと思います。これからの地域での活動の刺激になり、生活の糧になるようなヒントが得られたのではないかと思います。

東竹原自治振興区の栗屋さんがお話しされた「フットパスコースがあると、イベントが無い日にも歩きに来る人がいます」には、フットパスを勧めている私には嬉しい成果でした。ただ、パネルディスカッションと山都フットパスが同じ時間帯に開催されたのは残念でした。コースのある地域の方が「全国各地から、わざわざ歩きに来てくれる所」なのだ実感していただきたかったです。このサミットをきっかけに、熊本県だけの、また山都町だけの集落サミットもありではないかと次の展開に期待したいです。



●コーディネーター

有限会社ひとちいき計画ネットワーク 代表取締役 佐伯 謙介さん

①第3分科会のポイント

事例発表では、「自分たちが楽しむ」「資源マップ」「それぞれが役割」などがキーワードとされ、会場参加者と意見交換が活発に行われました。

②学び広げたいこと

地元の自然・歴史・産業・人等を再確認し、地域の物語を工夫し、交流人口、関係人口との関わりのなか、住民が各自の持ち分を発揮し楽しさにつなげることが、「住民主体の地域支え合い」そのものと実感されました。



2日目のパネルディスカッションでは、小野達也先生のコーディネートのもと、前日の3分科会をまとめながら、2名の方に事例発表をいただき、住民主体による地域の支え合いについて議論しました。地域のお宝(ひと・もの・こと)に焦点をあてた事例発表を受けて、各関係省庁から、これからの地域福祉のあり方について説明がありました。中山間地域における課題がたくさんあるなかで、地域の支え合いの重要性を再確認することができました。



● パネラー

白糸第一地区社協長

坂本 憲義さん



CLCのご配慮により当地でサミットが開催され、パネルディスカッションのパネラーとして参加でき、日頃の活動の一端を述べることでできて、生涯忘れることのできない体験をありがとうございました。

この2日間、遠方で利便性の悪く、CLCが全国的ネットワークでご活動されていることに感動いたしました。

町内の皆様には、行事が重なり集客を心配しておりましたが、2日間共に満席となり、活気あふれる雰囲気で大盛況に終了し、主催者皆様のご苦勞に心から感謝申し上げます。



中津市社会福祉協議会 地域福祉課
生活支援コーディネーター

梶原 豊美さん



山都町の全地域あがりの「何とかしなければ」という30地区福祉会の熱い思いが伝わる大会でした。3つの分科会においても、中山間地に住む住民が、知恵と英知で乗り切る素晴らしい活動の紹介があり、とても参考になりました。

パネルディスカッションでは、パネラーとして中津市山国町の「お宝さがし塾」の支え合いの取り組みをお伝えさせていただきましたが、このことはその後、山国町の地域住民にとっても大きな活力となりました。

2日間のサミットを終え、高齢化する集落が生き生きと輝くためにも、今回得たさまざまな取り組みの方法を地域づくりに活かしていかなければと痛感しました。



● サポーター

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部 内閣参事官 中野 孝浩さん

このたびは貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

都市圏と比較して、比べものにならないくらい困難な環境にある地域にもかかわらず、地域の方が日常生活のなかでしっかりとコミュニティづくりをし、それを支える社協の皆さんも素晴らしい活動をされていることがよくわかりました。また、私は分科会1に参加させていただきましたが、祭りや伝統芸能がコミュニティの維持に果たす役割の大きさも実感させられました。コミュニティは、あらゆることの基礎となる、とても重要な社会の共通基盤です。すべての人が「つながり」を持ち、居場所と役割を持ち、活躍できること。地元の伝統に根ざす活動、文化などは、こうしたコミュニティに大きく貢献しているものだと思いますが、これを維持することはそうそう簡単ではありません。山都町で継続できている背景には、専門職の皆さんが地域の皆さんと一緒にあって相当苦勞して、走り回っておられるのではと推察しています。あれだけ広大な合併市町村、いろいろご苦勞が絶えないことと思いますが、皆さまのますますのご活躍と山都町がますます暮らしやすいまちになることを、東京の地で祈念しています。ぜひ、同じような困難を抱える全国の地域のモデルとなりうる活動を継続してください。



● サポーター

厚生労働省社会・援護局地域福祉課 地域福祉専門官 玉置 隼人さん

一緒に登壇させて頂いた皆さんや参加者の方々との会話から、「コミュニティ」の多様なあり方、可能性を感じた2日間でした。地域共生社会の実現に向けて、今ある地域の資源が活かされ、私たちが生き生きと暮らせる地域ができるには、住民も専門職も、前向きに取り組んでいくことが大事だとあらためて考える機会となりました。そのために自分が何をすべきか、頂いた刺激を活かしながら仕事をし、暮らしていきたいと思えます。



農林水産省林野庁企画課

課長 山口 靖さん

サミットでは山都町の皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。

山都町では、地域の宝である素敵な方々と、それをつなぐ社会福祉協議会をはじめとする方々の連携が素晴らしいと感じました。小野先生が講演でお話された「理想への地域福祉」の実現に向けて、地域の課題を共有化したうえで、地域の多様な主体の協働で対応する、まさにオープニングの福祉劇のような取り組みが山都町においてますます盛んになるものと期待します。



熊本県健康福祉政策課

首席審議員兼課長 沼川 敦彦さん

サミットでは、熊本地震を契機に失われかけた地域の支え合いが再構築された実例にふれることができました。

県では、誰もが気軽に集い支え合う地域の拠点づくりを進める「地域の縁がわづくり」をはじめとした福祉のまちづくりに取り組んでいます。高齢化や過疎化が進む地域であっても、リーダーとなる人材が得られれば実践できるという今後の県の施策への示唆を得られた有意義なサミットでした。



熊本県社会福祉協議会

事務局長 吉本 裕二さん

今回のサミットは、山都町の特徴が最大限に活かされた素晴らしいプログラムであったと感じています。山都町の関係者をはじめ、住民の方々の心温まる「おもてなし」にも感銘を受けました。

そして、地域に暮らす人たちが、それぞれの文化や歴史、施設、人のつながりなどを大事な社会資源として育みながら、地域社会の課題に対して前向きに取り組まれる姿に、「集楽」の真髄を見た気がしました。



参加者の声

町内参加者より

- これだけのメンバーによるディスカッションは貴重であり、町内で参加できる幸せを痛感しました。
- これからも地域を見つめ直し、自分にできることがあるのではないかと考え、取り組んでみたいと思いました。
- 勉強になりました。まだまだ元気で地域のため、家族のために頑張ります。
- 伝統を守ることは、地域の協力が必要で、それは地域づくりの基本。知らないうちに地域づくりができあがる。
- 自分の地域では、年間通してやっているなあと思った。

県内参加者より

- 学び多い2日間、自分の住む地域でもこのようなシンポジウムを行いたいと思いました。
- 田舎での開催にも関わらず、よくできていました。
- 山都町の取り組みは素晴らしいと感じました。
- 分野を超えた話が聞けました。
- こんなサミットがあるとは知らなかった。参加できてよかったです。
- 特別のことではなくて、できることから始めたい。

県外参加者より

- 国も県も地域も、「人」が支えているのだと感じました。
- サミットに参加したおかげで、地域福祉について少し楽な気持ちになりました。
- ご近所助け合いの実践者の方々と交流でき、元気をもらいました。今後の仕事のエネルギーにします。
- 元気、やる気が出ました。
- 発表者の地域に対する誇りや地域福祉に対するエネルギーを感じました。
- これまでモヤモヤしていたものが晴れてくる気がしました。お宝探しから始めたいです。一步踏み出す勇気をもらいました。
- この後「国と語る会」的なこともできたらいいなあと思いました。

参加者アンケートより、感想を抜粋しました。

